

木城えほんの郷は、この秋

「かわいく年輪 植木沙弥郎の仕事展」を開催いたします。

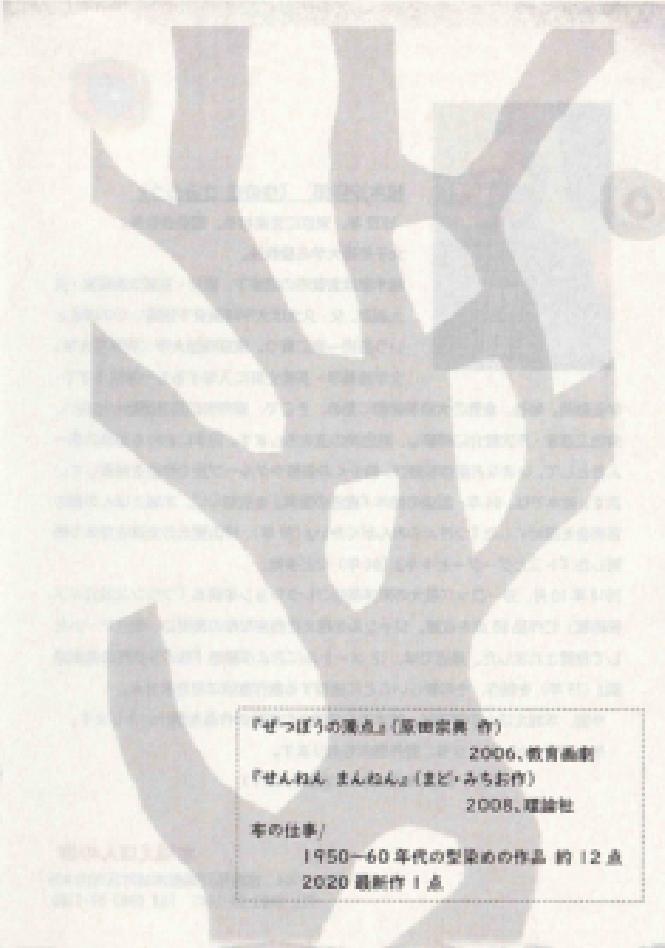
植木沙弥郎さんは、1922 年、東京生まれ。戦前、會社の大原美術館に勤め、柳宗悦の民芸運動に出会います。それをきっかけに、後の 人間国宝となる染色工芸家・荒沢桂介に師事。20 代半ばから染色家としての道を歩し、98 歳の現在に至るまで、日本の型染の第一人者として多部作を創作を続けています。

インドやメキシコ、ヨーロッパなどを旅し、その土地の暮らしの中から生み出された布や瓶具、現代美術や自然の生命を体感し、あらゆるもの自身のイメージに昇華する、鮮やかな色彩や幾何学模様の作品を生み出しています。

2016 年にはヨーロッパ最大の見津美術コレクションを持つ「フランス国立ギメ美術館」に作品 80 点を収蔵。ジャンルを超えた現代アートとして称赞されています。

植木の仕事では、94 年、型染の絵本『魔法の青葉』を皮切りに、木城えほんの郷の音楽会を題材にした『つきよのさんごくかい』(99 年)など多数あります。

今日は、植木『ぜっぽうの風景』(原田家典 作 2006)と
『せんなん まんねん』(まど・みちお作 2008)の原画、
植木沙弥郎の手をモチーフにした追加新作をはじめ、
布の仕事も展示いたします。98 歳の現在、
「汚れなくていいやつじゃない」と意欲的に創作を続ける
植木沙弥郎の世界をお楽しみください。



『ぜっぽうの風景』(原田家典 作)

2006、教育画劇

『せんなん まんねん』(まど・みちお作)

2008、理論社

布の仕事 /

1950-60 年代の型染めの作品 約 12 点

2020 最新作 1 点